

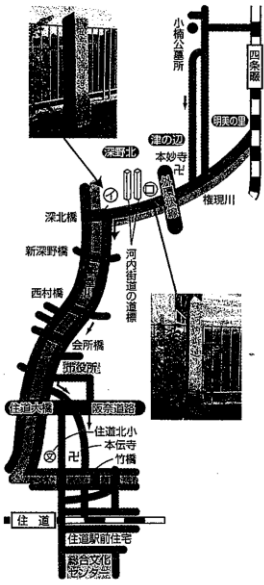
今昔物語 第19話

河内街道と

周辺の道標

この道は津の辺より小楠公墓所に至る道で、四條畷の中野・砂を経て枚方に至っていました。そのため枚方街道と称していましたが、明治になって河内街道となり、仮定県道に指定されています。

本市域では、四條畷市境の小楠公墓所より津の辺から権現川に沿って寝屋川左岸に出て、堤防東側を通過して住道大橋北詰へ。本伝寺東側を通り竹橋を渡り、住道商店街を横切り加納に至ります。現在は商店街を横切り、JR片町線の高架下で道が途切れています。



◎河内街道の道標

街道図の①・②の道標は現在同じ所に両者並べて設置されています。③の道標は、もとは寝屋川筋から権現川筋に曲がる角にありましたが、そこで、左面と右面とも河内街道と刻まれています。④の道標は現在の外環状線との交差する角にあったとのこと。⑤の道標は一時街道筋に埋没、姿を消していました。そこで、これを掘り出し、昭和55年に大東市文化財推進会の手で立てられました。しかし、どちらも元の場所に立てることは、交通事情などを考えた場合危険です。そこで比較的安全な場所を選び、現在地に設置されました。

今昔物語 第20話

市内のおかげ燈籠

江戸時代になって庶民の旅行も楽になると、何とか伊勢神宮参拝をしたいと思うあまり、領主や村役人はもちろん雇主・主人や家族にも告げないで、旅立ってしまう「抜け参り」が多くありました。これらの中には、旅費の用意もない人が多く、沿道の施しを頼りに参宮したため、「おかげ参り」と呼ばれるようになったのです。

こうしたおかげ参りは、年によつて異常な集団的な高まりを見せることがありました。大和や河内でもある年に異常なブームになり、村をあげての「おかげ踊り」に熱狂しました。その、おかげ踊りの陶酔から覚め、自らが発散した思いを記念して翌年立てたものが「おかげ燈籠」です。

市内には、8基のおかげ燈籠が確認され、文政13(一八三〇)年と翌年の天保2(一八三一)年銘が多くあります。



形式は

- 神社前に立っている
- 須波麻神社の燈籠
- 境内に立っている
- ② 大谷神社の燈籠
- ③ 本伝寺の燈籠
- ④ おかみ神社の燈籠
- ⑤ 龍間神社の燈籠
- 道路の辻に立っている
- ⑥ 灰塚3丁目路傍の燈籠
- ⑦ 諸福2丁目路傍の燈籠
- ⑧ 栄和町路傍の燈籠

